

もりねっと北海道は、「つなぐ・いかす」をキーワードに、林業から自然体験まで幅広く森にかかわる事業を行っています。旭川市は森に囲まれ、農業や家具など森と関わる地場産業も盛んな地域ですが、市民が暮らしと森との繋がりを知る機会は少なく、流通の進歩や子供の遊びの変化から、最近では、山菜や家具はお店で買うもの、休みの日は家でゲームまたは公園の遊具で遊ぶということが当たり前となってきています。

また、市内の私有林においては、山主の高齢化や、離農などの理由により、山主が森から離れてしまったことや、主暖房が薪から石油にかわってしまったことなどの理由から、放置されたままの私有林も増えています。もりねっとでは、間伐や道づくりなどの山主支援を行っています、今の森を手入れしただけでは、この豊かな森は持続されません。未来の森を創る世代への普及啓発が必要です。

本事業では、小学生から大人までが、森の成り立ちや多様性、森の仕組みや暮らしとのつながり、遊び方や安全のための心得など森に関することを学ぶためのハンドブック「森へ行こう」を制作しました。

今後は、小学校の自然体験の副読本としての活用や、森遊びを行う先生たちに活用してもらうなどの有効活用を考えた配布を行う予定です。

#### 森林学習テキスト「森へ行こう」

- 1 森を歩く いろいろな森の紹介
- 2 森を読む 水とCO2と光、年輪、タネ
- 3 森の結びつき 土と生き物、生物多様性
- 4 人と森の歴史 森のはじまり、森の開拓
- 5 森を育てる 植える・伐る、道づくり
- 6 さあ、森へ 服装と安全装備、恵みをいただく

